

製品名: PYK2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86611**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:116 kDa; Observed MW:116 kDa

抗原情報

遺伝子名	PYK2
別名	PKB; PTK; CAKB; FAK2; PYK2; CADTK; FADK2; RAFTK
遺伝子ID	2185
SwissProt ID	Q14289
免疫原	ヒト PYK2 の合成ペプチド

背景

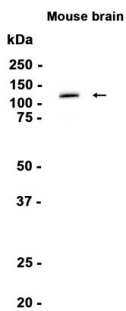
この遺伝子は、カルシウム誘導性イオンチャネル調節および MAP キナーゼシグナル伝達経路の活性化に関与する細胞質タンパク質

ロシキナーゼをコードしています。コードされているタンパク質は、カルシウム流入を増加させる神経ペプチド活性化受容体または神経伝達物質と、神経活動を制御する下流シグナルとの間の重要なシグナル伝達媒介物である可能性があります。コードされているタンパク質は、細胞内カルシウム濃度の上昇、ニコチン性アセチルコリン受容体の活性化、膜脱分極、またはタンパク質キナーゼCの活性化に反応して、速やかにチロシンリン酸化および活性化を受けます。このタンパク質は、CRK 関連基質、ネフロシスチン、FAK 関連 GTPase 調節因子、および GRB2 の SH2 ドメインに結合することが示されている。コードされているタンパク質は、タンパク質チロシンキナーゼの FAK サブファミリーのメンバーですが、他のサブファミリーのキナーゼとの顕著な配列相同性はありません。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする4つの転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2008年7月]

研究分野

-

画像データ



PYK2 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス脳組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。